



心臓の病気

心臓の病気について皆さんご存じですか。よく知られている病気で心筋梗塞や不整脈などありますが、どのように病気が起きるか、どのように診断するか知っていますか。心臓の病気は生命に関わる事が多く、注意が必要な病気です。今回はこの心臓の病気について詳しくご説明します。

心臓の役割

まず心臓の役割から説明します。心臓の役割は2つあり、肺から酸素を含んだ血液を送り込み全身の血管に血液を送り出す役割と、全身から戻ってきた二酸化炭素が含まれた血液を肺に送り出す役割があります。

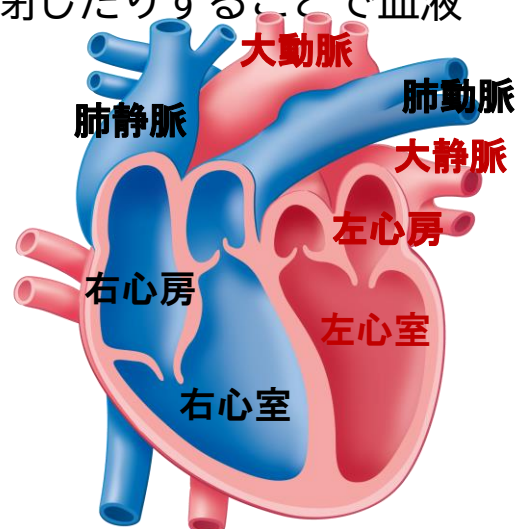
この役割は血液を全身に循環させるポンプのような機能を持っていて、このように心臓や血管など血液の循環に関わる臓器を循環器と言います。

心臓は4つの部屋に分かれていて、肺から血液を心臓に戻す血管を肺静脈といい、肺静脈から来た血液は心臓の左上の部屋に入ります。この部屋を左心房といいます。左心房から左下の部屋である左心室に入り、左心室から全身に血液を送り出す血管を大動脈といいます。

次に全身から心臓に戻る血管を大静脈といい、大静脈から右上の部屋に入ります。この部屋を右心房といいます。右心房から右下の部屋である右心室に血液が入り肺動脈という血管から肺に血液が送られます。

左右の心房と心室の間や心室と心臓から送り出す血管の間には合わせて4つの弁があり、この弁が開いたり閉じたりすることで血液の流れをコントロールしています。

この心臓は筋肉で出来ていて、脳からの指示がなくても心臓自身から電気刺激を出して心臓を動かしています。また心臓の働きを維持するために心臓に酸素や栄養分を送る血管があり、この血管を冠動脈といいます。冠動脈は血管が木の枝のように枝分かれし、心臓表面を覆うように存在しています。



心臓の病気

心臓の病気は心臓に関わる血管の病気と心臓自体に問題がある病気に分かれます。どのような病気かご説明します。

*冠動脈の病気

心臓の表面を覆っている冠動脈という血管が狭くなったり(狭心症)詰まる(心筋梗塞)ことで、心臓の筋肉に酸素や栄養分を届けることが出来なくなり心臓の動きが悪くなります。

心筋梗塞になり冠動脈の枝分かれした先の血管が詰まると血管付近の筋肉が動かなくなります。一度筋肉が動かなくなると筋肉は治ることが出来ません。動かなくなった筋肉の量によっては心臓の動きが悪くなることもあり心不全になったり、命にかかわることがあります。

症状は胸のあたりが締め付けられるような圧迫感や痛みが出ます。狭心症は血管が狭くなっている間なので数分から15分ぐらいで症状は治まります。心筋梗塞は激しい胸の痛みなどが30分以上続きます。

そのような症状が出たら大至急救急車を呼ぶ必要があります。

主な原因は動脈硬化です。高血圧症や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は動脈硬化を起こしやすく、血管の壁が厚く硬くなります。冠動脈の壁が狭くなると狭心症や心筋梗塞になります。

*心臓の病気

・弁膜症

心臓にある4つの弁が変形して開きにくくなったり閉じにくくなったりする病気です。弁が悪くなると心臓が動いたときに、血液が送り出すことが難しくなったり、血液が逆流したりと心室や心房に大きな負担がかかります。無症状であることが多いですが、悪化すると心臓の役割であるポンプ機能が維持出来なくなり動悸や息切れ、むくみなど心不全と同じような症状として現れます。

・心不全

心臓のポンプ機能がうまく働かなくなる病気です。死亡原因としては、心臓の病気のなかで最も多い疾患です。主な原因は狭心症や心筋梗塞、弁膜症、高血圧などがあります。症状は動悸や呼吸困難、手足のむくみなどが生じます。

・不整脈

心臓を動かすため一定のリズムで正しく出している電気刺激が乱れ、心臓の動きが速すぎたり遅すぎたり、また不規則に心臓が動く病気です。不整脈が起きると動悸や息切れ、胸の不快感や痛み、めまい、失神などが症状として現れます。

予防方法

心臓の病気のほとんどの原因は生活習慣病が関わっています。しかし軽症の場合は無症状なことが多く、症状が出たときには悪化していることもあります。

心臓の病気を知る方法として馴染みのある検査として心電図があります。健康診断でよく行われていて短時間で簡単に検査出来ます。健康診断などで定期的に心電図の検査を受けることは早期発見に繋がります。

次回の検査科ニュースはこの心電図についてご紹介します。



検査について詳しく知りたい方は、医師にご相談ください。